



校長だより

呉市立市阿賀小学校
安宗 誠



一番大切なのは「ありがたい」と思える心

長かった2学期もまもなく終わります。振り返ってみたとき、いちばんできていてほしい姿は、阿賀っ子全員、見守りの方に、「おはようございます。ありがとうございます。」が自然に言える姿。見守りの方に出会ったときに、どんな態度を取るかで、その人がどんな人か大体分かります。そんな重要なことなのではないでしょうか？とっても重要です。

例えば、テストでよい点を取ることが一番大切だと思っている人がいたとしましょう。それが一番の目的になっている人は、その実現のために自分に関わってくれている人・こと・ものに対する気持ちは少なくとも一番ではないのです。要するに、まわりの人・もの・ことは目的を達成するための手段になってしまっている。それに対して、「勉強ができる環境に自分を置いてもらっていることがありがたい。」という気持ちが出発点になっている人は、感謝の気持ちがエネルギーとなって切磋琢磨し、結果、テストでよい点も取るし、それにつながった人・もの・ことに感謝することはあっても、自分の手柄のように、ひけらかすこともない。見守りの方に「おはようございます。ありがとうございます。」が自然に言えるかどうか、そういったことのバロメーター。まさに「一事が万事」です。

このことに少しでも早く気が付き、行動に移せるようになることが、結果、自分の人生を心豊かに送ることにつながるような気がしてなりません。

以上のことを伝えるために、2学期の終業式では、「かさじぞう」を読み聞かせしてやりたいと思います。

正月のもちを買うために、夫婦で編んだあみがさも結局売れず、帰り道、ゆきをかぶったおじぞうさんに全部かぶせて、家に帰ってきたおじいさん。おばあさんもそのことを責めるどころか、「もちはなくとも、びょうきもせず、いっしょに年をこせるもの。ありがたいねえ」「そうだなあ。ありがたいなあ」・・・

この有名な昔話。まさに感謝の心の真髄ですね。

学年朝会でブシない指導を心がけています！



ブックフェア（図書室）
テーマ「うさぎ年」

